
NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2021.11

国立
国会
図書館
月報



洋書を追いかけて（後編） サムライ・帝国図書館・神秘主義

国立国会図書館で働いています Season2

国立国会図書館にない本
村にあった図書館の蔵書目録

国立 国会 図書館 月報

NO. 727
NOVEMBER 2021

CONTENTS

- | | | | |
|----|--|----|-------------------------|
| 1 | 此の文明事業に協力せよ
—— 国勢調査宣伝官報広告集
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から | 15 | 館内スコープ
今を記録し、未来に伝える |
| 5 | 洋書を追いかけて（後編）
サムライ・帝国図書館・神秘主義
森有礼、畠山義成、鮫島尚信と新生兄弟会 | 20 | 本屋にない本
『北極海航路ハンドブック』 |
| 16 | 国立国会図書館で働いています
Season2 no.2 | 31 | NDL TOPICS |
| 21 | 国立国会図書館にない本
村にあった図書館の蔵書目録 | | |



表紙：
『日本風景版画 軽井沢之部』から「千ヶ瀬道よりグリーンホテル遠望」*
前川千帆 著 創作版画倶楽部
昭和4 24×33cm
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1150573/4> (モノクロ)
※タイトルは『平木コレクションによる前川千帆展』（千葉市美術館）による

此の文明事業に協力せよ——国勢調査宣伝官報告集

西川久司



(右) 時の鐘をイメージした図案 (7月1日号)

(左) アールヌーヴォー調の図案 (9月1日号)



国勢調査宣伝官報告集 第1回(大正9年7月1日至9月30日)

印刷局 編集・発行 大正9 図版21枚;31cm
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/967529> (モノクロ)

昨年(2020年)10月、第21回国勢調査がコロナ禍の中で実施された。今月(2021年11月)にはその確報値である人口等基本集計が発表予定となっている。この第21回調査は第1回国勢調査のちょうど100年後にあたる節目の年に行われたものである。我が国で初めての国勢調査が実施されたのは大正9(1920)年10月1日のことであった。

当時の日本政府にとって国勢調査は単なる人口調査に留まらず、近代化の象徴、「文明国のあかし」となるものだった^①。しかし、実施に至るまでの道のりは容易なものではなかった。明治35(1902)年に「国勢調査ニ関スル法律」が成立したものの、その実施は、日露戦争、第一次世界大戦により相次いで延期の憂き目を見た。ようやく実施にこぎ着けた際、関係者の調査にかける思いはどれほどのものだったか。

回答者である国民の理解と協力なくして国勢調査の成功は望めない。初めての調査となればなおさらである。そのため、第1回国勢調査に際しては様々な媒体で広報活動が展開された。たとえば、国民から国勢調査の宣伝歌謡を募集する企画などが行われた^②。

本書はそうした広報の一環として官報号末に掲載された第1回国勢調査の広告集である。大正9年7月1日から9月30日までの3か月間、21回にわたって掲載された全面広告



大正9(1920)年9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

※□で囲った日付が国勢調査広告掲載日。日曜日と祭日（秋季皇霊祭、現在の秋分の日）は休刊日。

(上) 8月20日号、(左) 9月28日号の各広告。

官報といえば法令が掲載される刊行物だが、現在と違い当時の官報には一般広告、つまり民間企業の宣伝広告が掲載されていた。一般広告は号末にまとめて掲載され、国勢調査の広告はその最終ページを飾った。

をすべて収録している。21の広告には一つとして同じものではなく、それぞれに工夫を凝らしたデザインである。

官報7月1日号に掲載された最初の広告（1ページ右画像）は、調査の基準時刻となる10月1日午前0時を告げる「時の鐘」が鳴り響く中、国勢調査の意義と概要を語るものであった。その意義を「国勢調査は国家社会及国民生活の実状を審にし善政の基礎を作るに在り」と説いている。「善政の基礎」という言葉は9月1日号の広告にも見られる（1ページ左画像）。国勢調査を管轄していた臨時国勢調査局による文章でも「国勢調査といふものは（中略）以て善政の基礎を作るのが目的」と述べられていたり、案内冊子の副題に使われたりもした。第1回国勢調査のキーワードと言えるかもしれない。

8月20日号の広告（右上画像）は「調査事項八種」を紹介するものであった。「八種」の内訳は「氏名」「世帯ニ於ケル地位」「男女ノ別」「出生ノ年月日」「配偶ノ關係」「職業及職業上ノ地位」「出生地」「民籍別又ハ国籍別」である。調査事項は現在と比べて非常にシンプルだった。

興味深いのは、広告を打つ頻度・間隔である。前述のとおり7月から9月までの3

官報の発行者である印刷局（当時は内閣所管）の池田敬八局長による巻頭言では、国勢調査事業への協力のために官報に広告を掲載したことへの意気込みが語られている。この中で官報広告について「文明ニ貢献スル」ものだったと述べている。語り口からも、記念に官報広告をまとめて本書を出版し、記録を残していることから、国勢調査が政府の一大事業であったことが見て取れる。池田はのちに衆議院議員を務めた人物である。

大正九年十月

印刷局長 池田敬八

国勢調査周知ノ必要ナルコトハ改メテ云フマデモナシ
 臨時国勢調査局ニ於テハ出来得ベキ丈之レガ徹底ヲ期
 センガ爲メ各地ニ於テ講演會ヲ開キ其他諸種ノ方法ヲ
 以テ大ニ宣傳ニ力メタリ印刷局ニ於テモ官報ノ廣告ヲ
 以テ又印刷局内朝陽會ニ於テモ記念繪葉書ノ著作ヲ以
 テ何レモ此ノ事業ノ完成ヲ援タルニ力メタリ亦以テ相
 共ニ文明ニ貢献スル所以ナル可シ茲ニ當局ノ意匠ニ係
 ル官報ノ宣傳廣告ヲ蒐メテ一部ト爲シ各位ニ頒チ以テ
 第一回国勢調査ノ記念トス



(右) 9月30日号広告。(左) 10月1日をタイムリミットとし、その日に向かってカウントダウンが進んでいくイメージの広告もあった。9月27日号の広告は映画のフィルムを模したデザインとなっている。

か月間で21の広告が掲載されたが、その内訳は7月が4回、8月が5回なのにに対し9月だけで12回と半数以上を占めている。さらに、カレンダーで9月の掲載日を見ると12回のうち8回が下旬に集中しており、調査本番が近づくと急速に掲載ペースが上がっているのが分かる。調査の直前で唯一国勢調査それ自体を扱った広告が掲載されなかった9月24日号の号末には「国勢調査記念絵葉書」の広告があった（4ページ参照）。つまり、9月20日以降は調査当日までずっと国勢調査関係の広告が載っていたことになる。調査を成功させるためにラストスパートをかけたのだろうか。

そして国勢調査前日、9月30日号の広告（右上画像）では「此の文明事業に協力せよ」「五大強國の誇を現せ」と強めの表現で協力を呼びかけている。五大強國とは、第一次世界大戦に勝利し、調査前年（1919年）に開かれたパリ講和会議において「五大國」の座にあった米国、英国、フランス、イタリア、そして日本を指す。戦勝国として近代国家の一大事業である国勢調査を成功させねばならないという気概が見て取れる。

そうした自覚は、実は回答者である国民の側にも生じていた。意外に思われる方が

大人気？ 国勢調査関連グッズ

- 1 佐藤正広 著『国勢調査日本社会の百年』岩波書店 2015 p.42<請求記号 DT11-L23>
- 2 臨時国勢調査局[編]『国勢調査宣伝歌謡集』臨時国勢調査局 1920<請求記号 388-370>
- 3 臨時国勢調査局「国勢調査の趣旨」『統計集誌』467号 1920.1 pp.1-4<請求記号 雑24-2>
- 4 二階堂保則 講述、大日本国民教育会編輯部 編『国勢調査案内 善政の基礎』大日本国民教育会 1920 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/911436>
- 5 総務省統計局発行の資料で、21回の国勢調査における調査事項の変遷を確認できる。
令和2年国勢調査 調査結果の利用案内 ユーザーズガイド→参考3 調査事項の変遷. 総務省統計局ホームページ. https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/u_guide_2020.pdf#page=140
- 6、7 前掲、注1『国勢調査日本社会の百年』p.84
- 8 佐藤正広「国勢調査とははじめ(特集 国勢調査100年を迎えて 令和2年国勢調査への期待)」『統計』71巻9号 2020.9 pp.11-16<請求記号 Z3-458>

○参考文献

統計図書館コラム【雑字編】号外(統計史料でみる明治・大正期【その3】附録)第1回国勢調査に係る官報広告 総務省統計局ホームページ <https://www.stat.go.jp/library/pdf/cgogai1103.pdf>

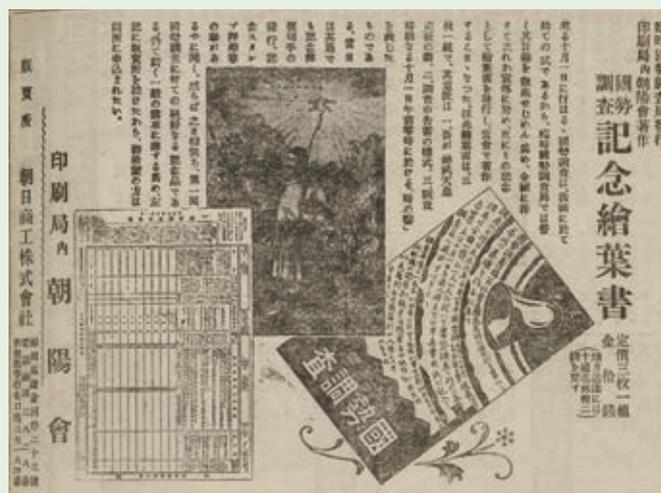
国勢調査100年のあゆみ 総務省統計局ホームページ https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/ayumi/pdf/ayumi_all.pdf

佐藤正広 著『国勢調査と日本近代』岩波書店 2002<請求記号 DT11-G42>

川合隆男 編、清川郁子 [ほか] 共著『近代日本社会調査史2』慶応通信 1991<請求記号 EC39-E10>

国勢調査編纂会 編『国勢調査記念録』国勢調査編纂会 大正10 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/966805>

※ URL の最終アクセス日：令和3年9月3日



『官報』1920年9月24日 国立印刷局 編集・発行<請求記号 CZ-2-2>

(上) 9月24日号に掲載された「国勢調査記念給葉書」の広告。神武天皇東征の図、調査申告書の様式、7月1日号の「時の鐘」の広告の3枚セットで10銭だった。

(下) 給葉書の広告と同じ9月24日号に掲載された「国勢調査用」万年筆の広告。

多いかもしれないが、第1回国勢調査はきわめて順調に実施されたと評されている^⑥。その要因として、政府だけでなく国民にとっても国勢調査は日本が第一次世界大戦を経て「一等国」の仲間入りを果たしたことを象徴する行事であり、「参加することを誇りと感じる心情が濃厚だった」「これに洩れるのを恥とする空気があった^⑧」ことが指摘されている。こうした背景から国民の広い協力を得られたことで、第1回国勢調査は成功裏に実施されたのである。官報広告をはじめとする積極的な広報活動は功を奏したと言ってよいだろう。

令和時代の今、私たちは国勢調査を「5年に1度の恒例行事」として当たり前を受け入れている。もしかしたら、それは1世紀前^⑨に第1回国勢調査の実施や広報を担当した人々の尽力、そしてそれに対する国民の協力のおかげなのかもしれない。

洋書を追いかけて（後編）

サムライ・帝国図書館・神秘主義

森有礼、畠山義成、鮫島尚信と新生兄弟会

御幡 真人



左から、森有礼、畠山義成、鮫島尚信

帝国図書館蔵洋書の最古層

組織としての国立国会図書館の一つの淵源は、1872（明治5）年に文部省によって設置された書籍館に求められる。書籍館は開館後まもなく太政官に移管され、浅草に移転させられ浅草文庫となったが、その後、1875（明治8）年に組織としての書籍館は文部省の管轄下に戻り、湯島に東京書籍館として再度設置される。しかし、この東京書籍館は浅草文庫の蔵書を継承していないため、国立国会図書館の蔵書の最古層はこの1875年の東京書籍館に由来するといつてよい。

ゼロから再スタートすることとなった東京書籍館は、開館に合わせて急ぎ蔵書を構築する必要があった。しかし、こと洋書についていえば、開国直後の日本において、短期間で系統だった蔵書構築をすることは、知識・技術の面からも、流通の面からも不可能で、いきおい「あるところから手に入れる」方式になった感がある。そして、そのために、東京書籍館の初期の蔵書状況はある興味深い特徴を有する。それは、個人蔵書の寄贈や購入によって収集した洋書の比率が高いということである。



東京書籍館は病気で休職中の畠山義成館長に代わって永井久一郎館長補のもと1875(明治8)年5月に湯島聖堂で開館したが、その時の洋書の蔵書は文部省から交付された5,555冊(以下「明治8年交付本」)を含む6,247冊であった。この文部省交付の5,555冊のうちには森有礼旧蔵のものが多く含まれるとされている。森は私設図書館設立のため集めていた洋書を、商法講習所(現一橋大学)設立の資金にあてるために文部省に売却したと言われている。

また、開館時の蔵書には、幕末の薩摩藩英国留学生として森、畠山と行動を共にし、帰国後は駐仏公使として活動していた鮫島尚信からの購入・寄贈本も含まれていた。これは友人である畠山の呼びかけに応えたものかもしれない。

畠山は1876(明治9)年10月にアメリカ出張からの帰途、太平洋上で死去したが、翌1877(明治10)年には、実兄二階堂蒞^{しとみ}が、畠山の遺した蔵書中、英書888冊を中心とする欧文図書919冊を東京書籍館に寄贈する。

さらに、1880(明治13)年に鮫島が激務の末バリーで客死すると、翌

1881(明治14)年、鮫島の末弟盛から旧蔵書の寄贈があった。

その後、森が1889(明治22)年に凶刃に倒れると、自宅狭隘を理由に、遺児の森清の後見人と思われる宮川久次郎から東京図書館へ森の旧蔵本の「保管」が依頼された。1893(明治26)年には一部が森家に返還されているようだが、一部はなおも当館が所蔵している。

もちろんこの間にも、購入や国際交換等の手段によって収集された洋書がある。しかし、初期の東京書籍館の蔵する洋書のうち一定の部分を、薩摩藩第一次英国留学生のメンバーであった森、畠山、鮫島の旧蔵書によって賄っていたということは注目されてよい。そこで、本稿では彼らの旧蔵書について紹介したい。

森、畠山、鮫島旧蔵本の構成について

3人のコレクションはどのような構成を持っているのだろうか。彼らの旧蔵書に的を絞って、それを網羅したリストは存在しないが、残されたさまざまな記録からその全体像を窺うことはできる。

たとえば、畠山、鮫島両文庫については不完全ながら目録が存在する。

小林隆明「畠山文庫目録」(『参考書誌研究』29号、1985年)

——「畠山文庫目録 補遺と訂正」(『参考書誌研究』30号、1985年)

——「鮫島文庫目録稿」(『参考書誌研究』30号、1985年)

なぜ不完全かというと寄贈時のリストが現存していないためである。そのため、全貌を把握することはできない。思いがけず手に取った本がこれらの文庫に該当すべきものであったことが判明することがある。

森の旧蔵本については記録がわずかずであり、全体の把握はさらに困難である。明治8年文部省交付本中いずれが森旧蔵であったかについては記録が存在せず、署名などから推測するしかない。とはいえ、同時代人の証言によれば、「核となる部分」は森の旧蔵であったらしい¹⁾。1876(明治9)年の東京書籍館の洋書目録である『A Classified catalogue of the books in the English, French and German



Languages of the Tokyo Showa-kenun or Tokyo

Library)に記載の洋書は大半が明治8年

文部省交付本であるが、筆者が書庫で実物を見た限り、森や奇贈者による森宛の署名のあるものも多く、この証言を裏付けている。

これらの記録から、彼らの蔵書のおおまかな構成についてみてみよう。

畠山、鮫島の両文庫とも、留学生としての彼らの幅広い関心に応じて主題は広範にわたるが、1982年に当館で開催した展示会『国立国会図書館所蔵個人文庫展——西欧学術の追求——』の展示会目録によれば、畠山文庫では「当時の歴史学の主流であった政治史関係の古典や文学書、語学書など」¹⁾、「キリスト教関係書」が、鮫島文庫では「社会科学、特に法律・政治関係書」が特徴的であるとされている。²⁾

1876年の東京書籍館の洋書目録は、哲学、社会科学、自然科学、文学、芸術、歴史地理、事典等の分野にわたって蔵書を揃えていた。³⁾この目録の「核となる部分」が森の旧蔵であったという証言を信じるならば、この構成が森の旧蔵

本の構成と類似している可能性は高い。

概観すれば以上のように、3人の蔵書は公の図書館の参考書にふさわしく、学究的なテーマについて幅広く、バランスよく収集されていた。しかし、個人の旧蔵書にしては、図書館の蔵書にふさわしすぎるのではないか、との疑問が浮かばれよう。それもそのはずで、鮫島、森については、これらの蔵書をいずれは私設図書館を作ろうとの企図のもとに収集していたという証言が残されている。⁵⁾ 紆余曲折あつて結局は東京書籍館に収蔵されることとなったのだが、利用者に大きな便益を齎した^{もたら}ことであろう。

しかし、それでも彼らの文庫をより詳細に調べてみれば、極めて個人的な来歴の臭跡を辿ることもできる。次節以降では、彼らの若き日の海外留学と、それが彼らに与えた影響を見てみることにする。

留学の顛末

森、畠山、鮫島は、薩摩藩第一次英国留学生のメンバーだった。彼らの留学生活とはどのようなものだったのだろうか。

か。

薩長戦争に敗北した薩摩藩は西洋事情に通じた人材育成の必要を痛感し、洋学校である開成所の優秀な生徒を中心に構成した留学生の団を1865(慶応元年)に密出国させ、イギリスへ派遣した。彼らはロンドン大学で歴史・化学・数学などを学ぶこととなる。ロンドンで、当時の留学生たちは下院議員ローレンス・オリファント(Laurence Oliphant)のもとに出入りしていた。オリファントは志願して在日イギリス公使館で活動していたこともあり、親日家とみなされていたためである。オリファントは当時アメリカの神秘主義宗教者であるトマス・レイク・ハリス(Thomas Lake Harris)の教説を信奉しており、ハリスがアメリカで経営していた「新生兄弟会」(Brotherhood of the New Life)なる宗教的共同体の生活に留学生を誘った。

1867(慶応3)年夏、森、畠山、鮫島を含む6人の留学生はこの誘いに応じ、新大陸へ渡ることになった。ハリスの教説はスウェーデンボルグ主義と東洋的神秘主義の折衷に基づくもので、ハリスの主権する共同生活はハリスの預言者

森、畠山、鮫島と書籍館から帝国図書館への年表

1842 (天保 13)	畠山義成、生まれる
1845 (弘化 2)	鮫島尚信、生まれる
1847 (弘化 4)	森有礼、生まれる
1865 (元治 2)	薩摩藩留学生密出国、イギリスへ
1867 (慶応 3)	6 人の留学生、アメリカへ
1868 (慶応 4)	畠山ラトガース大学へ。森、鮫島帰国
1872 (明治 5)	書籍館開館
1873 (明治 6)	畠山帰国
1875 (明治 8)	東京書籍館開館。畠山が館長に就任、鮫島は蔵書を売却・寄贈
1876 (明治 9)	畠山、アメリカ出張の帰路没
1877 (明治 10)	畠山の兄、蔵書を東京書籍館に寄贈。東京書籍館、東京府書籍館と改称
1880 (明治 13)	東京府図書館、東京図書館に改称。鮫島没
1881 (明治 14)	鮫島の弟、蔵書を東京図書館に寄贈
1889 (明治 22)	森没。息子、蔵書を東京図書館に寄贈
1897 (明治 30)	帝国図書館官制公布

的カリスマによって支配された、厳格な祈りと労働の生活であった。現代的な視点からしても、当時の英米で正統派とみなされていたキリスト教会の視点からしても、れっきとした異端的カルトであった。留学生たちはアメリカで祈りと労働の生活に入る。

学生たちがハリスの教説に惹かれたのは理由がないことではない。オリファントは折に触れて留学生たちにハリスの教説に基づく西洋文明と主流キリスト教会への批判を述べていたようであるが、留学生たちが当地で頼るべき有力者といえどもオリファントであり、その意見は説得力を持って響くとともに、無下にすることは得策ではないとも考えられただろう。また、時期は倒幕の最終段階であり、薩摩藩も無制限に留学生に学資を送金することが難しくなっていた。アメリカでハリス教団に参加し、働きながら英語を含む諸学の学習を継続することは彼らにとって次善の策であったろう。

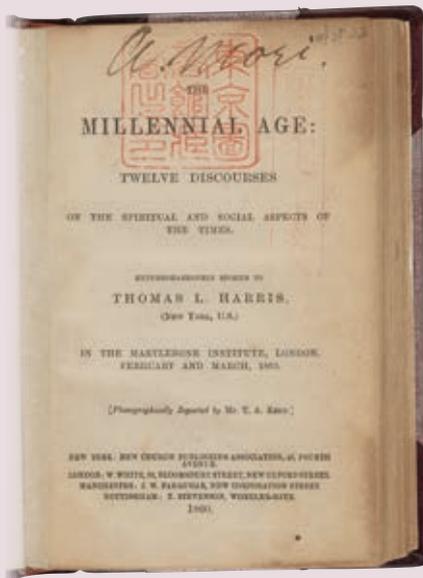
ハリス側にも主流キリスト教会が浸透していない日本に新生兄弟会の新天地を見出していた節がある。1867年のハリスのメモ、「日本の預言」(A Prophecy)

(of Japan) には「日本の再生」計画が述べられており、大略すればそれは新生を受け入れた「ある大名」(幕府でも天皇でもなく)のもとで、進んだ日本人が軍学校を創設するというものであった。乱世にあって藩、祖国を内憂外患から守るという目的を持った留学生たちがこの思想をよすがとしたというのも考えられないことではない。

こうした背景のもと渡米する彼らの態度は一枚岩ではなかった。鮫島、森はハリスの教説そのものに心酔していたとみえるし、畠山はそれに比すると、教義そのものには批判的検討を要すると認識していたようである。

いずれにせよ留学生の新生兄弟会での生活は1年余りで終焉を迎える。「愛国問題」といわれる論争が起ったためである。これは、もし神聖な命令(ハリスへの服従)と日本への愛国の間に葛藤があった場合、どちらへ服従すべきかという問題であった。この論争によって留学生は分裂し、畠山を含む3人は教団から分かれてニュージャージー州のニューブランズウィックへ発ち、そこでラトガース大学へ入学し勉学を継続することに

The millennial age



The millennial age : twelve discourses on the spiritual and social aspects of the times / extemporaneously spoken by Thomas L. Harris. New York: New Church Pub. Association, 1860.<請求記号 81-94>



1860年2月から3月にかけてロンドンのメルルボーン教会で行われたハリスの即興演説の筆記録。ハリスの終末論的ビジョンが語られている。アメリカで活動していたハリスはロンドンの上流階級に対する売り込みも並行して行い、オリファントの母はこういった講演会を通じてハリスの教説に傾倒していったらしい。明治8年文部省交付。森有礼 (A. Mori) の署名あり。鮫島の署名もある。

なった。一方森、鮫島はハリスの教団に残ることを選択したが、間もなくハリスが王政復古後の日本が彼らを必要としているという天啓を受けたため、その勧めに従って日本に帰国した⁷⁾。

その後、周知のように森は外務、文部行政に携わりながら一橋大学の前身となる商法講習所を立ち上げるなどの活躍をみせ、畠山も開成学校、外国語学校の校長、東京書籍館、東京博物館館長を歴任し、鮫島は駐仏公使、外務大輔として活躍する。しかし、先述のように、彼らが留学から得た経験を長きにわたって活かすことはできなかった。留学からの帰国後も激務に追われた畠山、鮫島はどちらも30代半ばで病没し、革新的、開化的政策を次々と打ち出した森は、41歳のとき国粹主義者の手によって暗殺される。

ハリスの影響

留学中の特異な経験は3人にどのような影響を与えたのだろうか。森がわが国で最初期に「政教分離」を唱えた人であることからわかるように、公人としての彼らのキャリアにその影響をみることは難しい。しかし、私人として彼らが遺

した蔵書中には一定程度アメリカでの宗教体験が反映されている。たとえば1876年の東京書籍館洋書目録にはハリスの著書が含まれており、

HARRIS, Thomas Lake,

1. *Arcana of Christianity (vol I part III the Apocalypse)* 8vo. New York & London 1867.

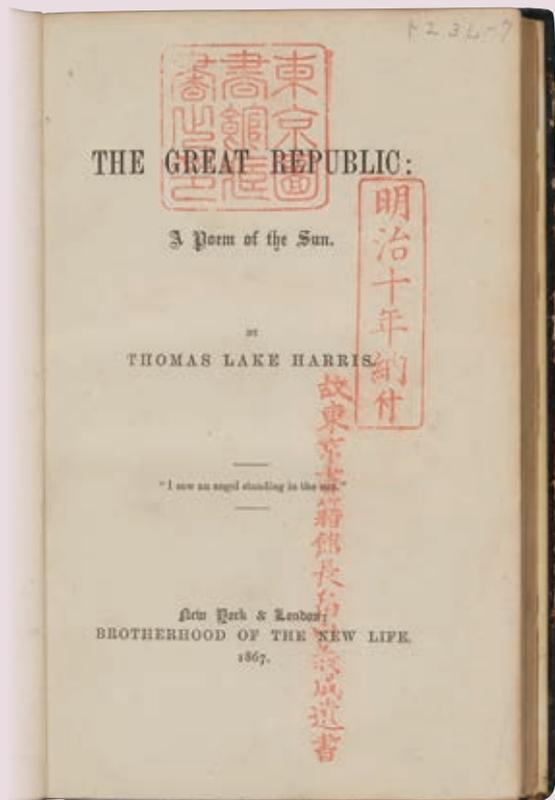
2. *Herald of light, a monthly journal of the Lord's new church.* May 1857-Apr. 1858, & Nov. 1859-Apr. 1860. 8vo, 2 vol. New York 1858-60.

3. *Millennial age.* 16mo. New York 1860. (上画像)

2、3には森の署名 (A. Mori) がある。1は明治8年度文部省交付印のみだが、再製本の際に署名のあったページが脱落したのかもしれない。

また、畠山もハリスの著書を蔵していたようだ。没後1877 (明治10) 年寄贈のため1876年の目録には記載がないが、

Harris, Thomas Lake, *The great republic:*



The great republic

トマス・レイク・ハリスの宗教的世界観が詩の形で表現されている。人間の墮落によって接近する破滅と、破滅後の世界における救済が説かれている。ユートピア社会主義に影響され共同体生活を重視していることなどが特徴的である。皇山文庫。

The great republic: a poem of the sun. By Thomas Lake Harris. New York & London: Brotherhood of the New Life, 1867.< 請求記号 24-50>

a poem of the sun. New York & London 1867.

は皇山文庫中にある(上画像)。

また、ハリスの教団はスウェーデンボルグ派の影響を強く受けていると述べたが、彼の教えを受けた留学生たちもスウェーデンボルグに並々ならぬ関心を持っていったようである。

1876年の目録にあるスウェーデンボルグの著書は9件。いまでこそ著名な神秘主義著者のスウェーデンボルグであるが、日本国内で広く紹介されたのは1910(明治43)年の鈴木大拙による翻訳『天界と地獄』がはじめてであり、明治初期にはまだ国内でほとんど知られていなかったことを考えると、この所蔵数は、それが森の旧蔵であったことを意味している可能性が高い。

また、皇山文庫にも以下のようなスウェーデンボルグの著書がみられる。

Swedenborg, Emanuel, *An account of the last judgement and of the Babylon destroyed.* London 1864.

———, *The earths in the universe, and their*

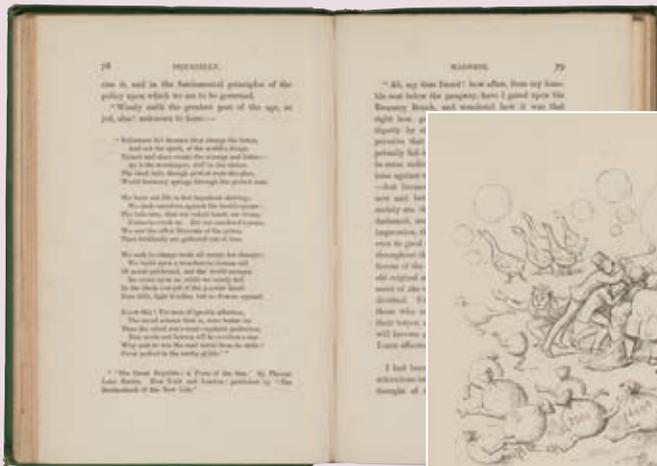
inhabitants. London 1860.

———, *The four leading doctrines of the new church, signified by the New Jerusalem in the Revelation.* London 1870.

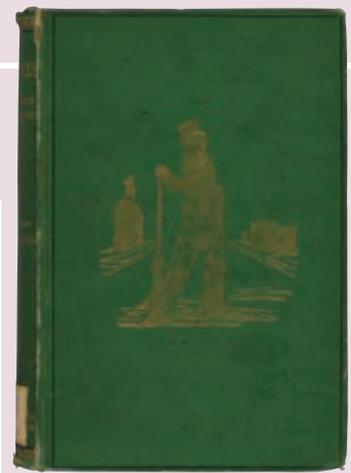
これらには寄贈時に押印された「故東京書籍館長皇山義成遺書」の印のほか、遊び紙には「主 沢井」の署名がみられる(13ページ参照)。森の留置中の変名が「沢井鉄馬」であったから、これは森が所有していた本を皇山に譲ったということだろうか。ドグマティックな森とプラグマティックな皇山がスウェーデンボルグの著書を片手に教義論争をしていた様子が想像される。

皇山と森の蔵書には上記のような共通点のほか、相違点もみられる。

皇山はハリスの教団を去ったあと、ラトガース大学に入学、その宗派であるプロテスタントの一派オランダ改革派教会で洗礼を受けている。終生キリスト教に強い関心を持っていたことを示すように、皇山文庫は大量のキリスト教関係書を含んでいる。オランダ改革派教会の視点から書かれたもの(皇山文庫目録



ローレンス・オリファントが議員辞職後の1870年に発表した小説。自身ロンドン社交界の寵児であったオリファントが社会の腐敗と偽善を軽妙な語り口で風刺する。ハリスの *The great republic: a poem of the sun*. が引用されている箇所がある(78ページ)。鮫島文庫。1871年の鮫島の署名がある。その年、鮫島は駐仏少弁務使として、オリファントはザ・タイムズの特派員として、ともにパリに滞在していた。



Piccadilly; a fragment of contemporary biography, by Laurence Oliphant; with eight illustrations by Richard Doyle. 2. Ed. Edinburgh [etc.] : W. Blackwood and Sons, 1870.<請求記号 24-123>

Piccadilly

106、114) が特徴的だ。

森の旧蔵を多く含むとみられる明治8年文部省交付本にも多くキリスト教関係書を含むが、こちらでむしろ特徴的なのは米国ユニテリアン協会から寄贈された書物である。1876年の目録中に米国ユニテリアン教会からの寄贈印のある書籍は(確認できた限りでは)28冊含まれている。森はアメリカ留学から帰国したのち1871(明治4)年に今度は少弁務使としてアメリカに派遣されたが、そこでユニテリアンと知己を得た可能性がある⁽¹⁰⁾。三位一体を否定するように、ユニテリアンも(ハリスの宗教ほどではないにせよ)キリスト教の主流派ではないが、その宗教的寛容性が日本における信教の自由の進展に用立つとみられたのか、森は日本にユニテリアンの宣教師を招聘しようとしている。

一方、鮫島はどうだったのか。鮫島文庫における宗教書の割合は極端に少ない。鮫島文庫目録稿ないし1876年の東京書籍館洋書目録の宗教分類中、鮫島の旧蔵であることを蔵書印などから確認できる、キリスト教に關係する書籍はわ

ずかに以下の3冊である。

1. MAURICE, F. D., M. A. *Religions of the world, and their relations to Christianity*. 4th ed. 16mo. Cambridge & London 1861.
2. RUSSELL, John Earl. *Essays on the history of the Christian religion*. 2nd ed. 8vo. London 1873.
3. RACINE-BRAUD, A. *Tablettes historiques du Protestantisme Français*. 8vo. Paris 1872.

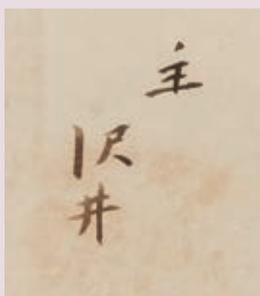
1はどちらかといえば世界の諸宗が主題であって、クルアーンの英訳などを購入していた鮫島にとって、外交官としての地域研究のために買われたものではないだろうか。2については英国首相も務めた有力者のラッセル伯爵ジョン・ラッセル(John Russell, 1st Earl Russell)の著作ということで収集されたものか。3も宗教書というよりは宗教史である。

鮫島はハリスの伝記著者であるカスバート(Arthur A. Cuthbert)によって生涯の最後までハリスに忠誠を誓ったと評されている⁽¹¹⁾。さらに、パリで客死した鮫島に森が送った告別の辞は明らかにハ

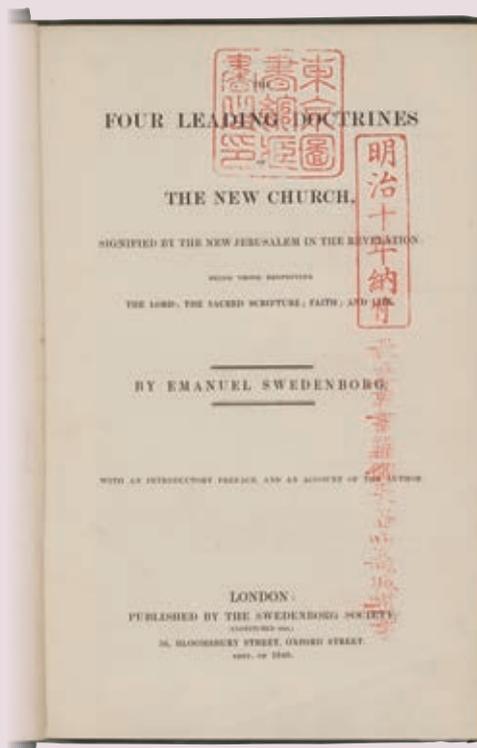
The four leading doctrines of the new church

スウェーデンボルグの *Doctrina Novæ Hierosolymæ de Domino.*, *Doctrina Novæ Hierosolymæ de Scriptura Sacra.*, *Doctrina Vitæ pro Nova Hierosolyma ex præceptis Decalogi.*, *Doctrina Novæ Hierosolymæ de Fide.* の英訳。

島山文庫であるが、標題紙に「主 沢井」の署名がある。森の留学中の変名が「沢井鉄馬」であることから、森の旧蔵書を島山が譲り受けたものか。



The four leading doctrines of the new church, signified by the New Jerusalem in the Revelation : being those respecting the Lord, the sacred scripture, faith, and life / by Emanuel Swedenborg, London : Swedenborg Society, 1846.<請求記号 65-126>



リスの教団の内部での独特の用語法を持っており、⁽¹²⁾ 鮫島の篤信はその死の瞬間まで疑いえない。その鮫島の旧蔵書に宗教書がみられないのはなぜだろうか。鮫島の蔵書の寄贈は前述のように2回に分けて行われた。生前の1875（明治8）年に本人によって寄贈されたものと、死後の1881（明治14）年に遺族によって行われたものの2回であるが、鮫島、あるいは遺族は宗教関係書の寄贈を控えたのだろうか。たしかに鮫島文庫の大部分を占めるのは国立の図書館にふさわしい法学、社会科学、歴史、地理書の類であるが、旅行者向けの案内本（鮫島文庫目録稿37等）や家庭の医学に関する書籍（同目録稿88等）も寄贈されていることから、国立の図書館の蔵書にふさわしいものだけを選んで寄贈したとは考えづらい。あるいは、ハリスに心酔する鮫島は新生兄弟会以外の宗教には見向きもせず、したがってそもそも宗教書を収集しなかったのだろうか。現にないことからならぬか結論を引き出すことはできないが、特色という意味でいえばこれも特色であろう。鮫島は宗教書を収集しなかったか、寄贈しなかったのである。

おわりに

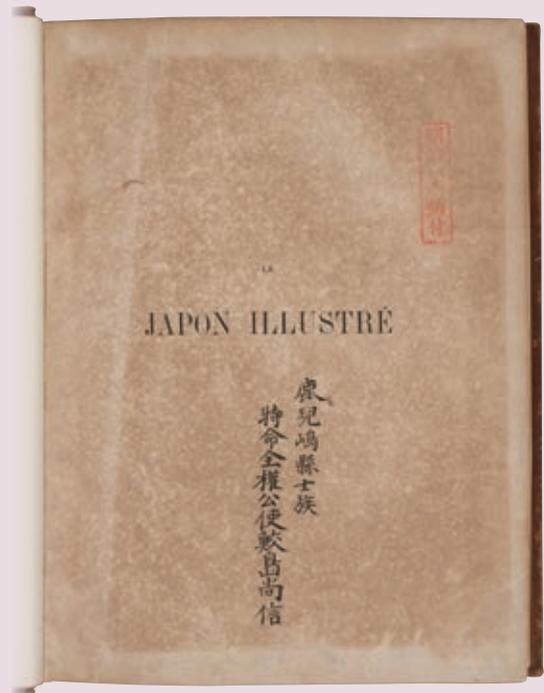
本棚を見ればその人となりが分かることは紋切型だが、真実を捉えているからこそ紋切型は紋切型たりえているのであつて——蔵書に残された外交官らしい流麗なサインを見れば日本初的外交官である鮫島が欧米の社交界で堂々と立ち振る舞っている様子が想像されるし、骨相学⁽¹³⁾のマニユアル本に島山の書き込みがある⁽¹⁴⁾のを見れば、彼の興味の幅に驚かされる。男女平等、契約結婚を説いた森の特異な女性観、結婚観はスウェーデンボルグに由来するものだろうか。挙げればきりはないが、彼らの蔵書を眺めていると、本稿では紹介しきれなかった様々な横顔が見えてきて興味深い。

留学を終えてのちはおそらく、それぞれ顔を合わせる暇もほとんどなく働き、そして悲運に襲われて早逝した3人ではあったが、今や彼らはこうして当館の書庫で蔵書となって一堂に会し、いまでも生き、働き、輝いている。

Le Japon illustré

エメ・アンペール (Aimé Humbert-Droz) の『幕末日本図絵』。1863年、スイス時計協会会長のアンペールが修好通商条約の締結のため、「特使及び全権公使」として来日した。その際に見聞した日本の風物詩をまとめ 1870年に出版したもの。当時のフランスの代表的な挿絵画家による挿絵は評価が高い。邦訳も何種類か存在する。略標題に「鹿児島縣士族 特命全権公使鮫島尚信」とある。外交官として鮫島が、フランス外交界に日本を紹介する際に用いたのであろうか。

Le Japon illustré / par Aimé Humbert...; Ouvrage contenant 476 vues, scènes, types, monuments et paysages dessinées par E. Bayard, H. Catenaci..., E[mile Théodore] Théron, etc. 2 tomes. Paris: Hachette & Cie., 1870. <請求記号 B-103>



■参考文献

- 犬塚孝明「翻刻 杉浦弘蔵ノート」『鹿児島県立短期大学研究年報』15報 1987<請求記号 Z22-929>
森有禮〔著〕、大久保利謙 監修、上沼一郎、犬塚孝明 共編『新修 森有禮全集 別巻4』文泉堂書店 2015<請求記号 US21-L38>
岡田温「日上野図書館の収書方針とその蔵書（国立国会図書館の収書 第二部 歩み・研究）」『図書館研究シリーズ 復刻』5 1961.12<請求記号 Z79-B153>
門田明 著『若き薩摩の群像』高城書房 2010<請求記号 GB383-J21>
木村匡『森先生伝』金港堂書籍 1899 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/991656>
『国立国会図書館所蔵個人文庫展 展示会目録【その1】（西学学術の追求）』国立国会図書館 1982<請求記号 UP72-42>
中林隆明「上野図書館における洋書の形成について」石井敦先生古稀記念論集刊行会 編『転換期における図書館の課題と歴史 石井敦先生古稀記念論集』緑蔭書房 1995<請求記号 UL51-G2>
武田清子 著『人間観の相剋 近代日本の思想とキリスト教』弘文堂 1959<請求記号 190.21-Ta466n>
中林隆明「『島山文庫目録』『参考書誌研究』29号、「島山文庫目録 補遺と訂正」「鮫島文庫目録稿」『参考書誌研究』30号 1985<請求記号 Z21-291>

■注

- 1 Department of the Interior, Bureau of Education, *Public libraries in the United States of America: their history, condition and management: special report*. Washington, 1876, p. xxxiv.<請求記号 027.073-U58p>、木村匡『森先生伝』金港堂書籍 1899 pp.77-78 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/991656>
2 『国立国会図書館所蔵個人文庫展 展示会目録【その1】（西学学術の追求）』国立国会図書館 1982 pp.56-59<請求記号 UP72-42>
3 広瀬淳子「学習院が所蔵する華族会館旧蔵洋書について 忘れられた華族会館寄贈図書（その2）」『人文』10巻 2011 p.139<請求記号 Z71-M19>「全体のなかで歴史地理書の占める割合が比較的小さい」ことが指摘されている。
4 *Public libraries in the United States of America...* でこう証言した David Murray は当時文部省顧問として招聘されていたいわゆる「お雇い外国人」であり、森との関係も深かった。
5 中林隆明「鮫島文庫目録稿」『参考書誌研究』30号 1985 p.37<請求記号 Z21-291>、前掲『森先生伝』pp.77-78
6 犬塚孝明「翻刻 杉浦弘蔵ノート」『鹿児島県立短期大学研究年報』15報 1987

- pp.101-107<請求記号 Z22-929>。「島山義成より岩下方平・新納久脩への書簡（一八六八年七月八日）」参照。
7 門田明 著『若き薩摩の群像』高城書房 2010 pp.155-160<請求記号 GB383-J21>
8 Doyle, Arthur Conan, *The history of spiritualism*. Vol. I, London & New York: Cassel, [1926], p. 122.<請求記号 133.9-D754h>
9 Griffis, William E., *The Rutgers graduates in Japan: an address delivered in Kirkpatrick Chapel, Rutgers College, June 16, 1885*. 2nd ed. New Brunswick, N.J.: Rutgers College, 1916, pp. 22-23.
10 森有禮〔著〕、大久保利謙 監修、上沼一郎、犬塚孝明 共編『新修 森有禮全集 別巻4』文泉堂書店 2015 PP.470-476<請求記号 US21-L38>
11 Cuthbert, Arthur A., *The life and world-work of Thomas Lake Harris*. Glasgow: C. W. Pearce & co., 1908, p. 192.
12 “Sameshima! Ever since you began your uses in this world righteousness has found you a most faithful servant. You worked hard and well thirty-seven years worthily spent. No more, O precious soul! no more, O noble labourer! no more, O bright star! still you live, still you work, still you shine in the bosoms of your friends. You know me well!”（「鮫島よ！君がこの世での使命を果たし始めて以来、義によって君は最も忠実なしもべであった。君は勤勉に働き、三十七年の人生を十分立派に生きた。もうよい、高貴なる魂よ！もうよい、気高き働き人よ！もうよい、輝ける星よ！友たちの胸の中で、君はいまも生き、働き、輝いている。君はよくよく知っているだろう！」）『林竹二著作集2 森有禮 悲劇への序章』筑摩書房 1986 pp.196-197<請求記号 FA25-649>（下線引用者。“Use”は、スウェーデンボルグ神学のキーワードで、日本語では「役立ち」などと訳されている。新生兄弟会ではハリスの共同体での労働とそれを通じた神への献身のことを Use と呼んでいた。鮫島の享年は森の勘違いか。）
13 Wells, Samuel R., *How to read character: a new illustrated hand-book of phrenology and physiognomy, for students and examiners; with a descriptive chart*. New York, 1872<請求記号 22-103>
14 「故東京書籍館長島山義成遺書」の印こそないものの、「Kozo Soogiwora」（島山の留学時の変名は杉浦弘蔵）の名で書き込みがある。
15 「鮫」は「隼+交」の字形。

■肖像の典拠

- 森有禮：電子展示会「近代日本人の肖像」
島山義成：『国立国会図書館三十年史』<請求記号 UL214-7>
鮫島尚信：『大日本名家肖像集』<請求記号 281.038-Ke116d>

「国立国会図書館でワーブをしています」と聞くと、瞬間移動してるのか？

と多くの方は思うかも知れません。関西館に勤務している私は、東京本館にワーブできたなら便利ななあ、と叶わぬ夢を抱いています。しかし国立国会図書館の事業では、「ワーブ」は別のものを指します。それが、インターネット資料収集保存事業（WARP: Web Archiving Project）です。

「インターネット資料」とは耳慣れない言葉ですが、大まかにいうと「ウェブサイト」のことを指します。WARPは、国内の色々なウェブサイトを定期的に収集（コピー）して保存する事業です。私もおもに、収集されたウェブサイトの確認と公開作業を担当しています。

WARPはできるだけそのままの形でウェブサイトを保存することを目指していますが、収集はプログラムが自動で行っているため、収集されたものを確認してみると、レイアウトが崩れたり、アドレスが変わって収集に失敗したりすることもしばしば見られます。設定を

見直し再収集する等してこのようなエラーを直すのが私の担当ですが、この作業は時間がかかってなかなか辛く、どうやっても直せない時は心が折れます。一方でエラーが解消できた時の爽快感はやみつきになりますし、将来の人々のために現在を記録する、という重要な役割を担えているという充実感も得られます。

収集している多種多様なウェブサイトの中で、私のお気に入りには都道府県や市区町村のウェブサイトです。国立国会図書館法は、当館が公的な機関のウェブサイトも収集することを定めており、WARPでは日本中の自治体のウェブサイトを集めています。それらに掲載された観光地や名産品の写真は、新型コロナウイルス感染症の拡大で実際に現地に足を運べずやきもきする私に、ちょっとした旅行気分を味わわせてくれます。

私は2020年4月に入館したため、新規採用職員研修最終日に緊急事態宣言が発令され、着任していきなりリモートワークという経験をしました。皆さんもコロナ禍でさまざまな経験をされたので

はないかと思いますが、私が確認し公開してきたウェブサイトには、「県をまたぐ移動は控えてください」「ワクチン接種が始まります」など、私たちが経験したコロナ禍の貴重な記録も詰まっています。現在はもちろん、いつの日か「そういえばそんな時代もあったね」と振り返ることができる未来でも、WARPは「今」を伝える語り手としての役割を果たし続けることでしょう。

（関西館電子図書館課 ひやむぎ）

WARPで収集した国立国会図書館ホームページ



2020年3月3日

Time Warp!



2020年3月4日 同じページの他の日のものに飛ぶこともできます



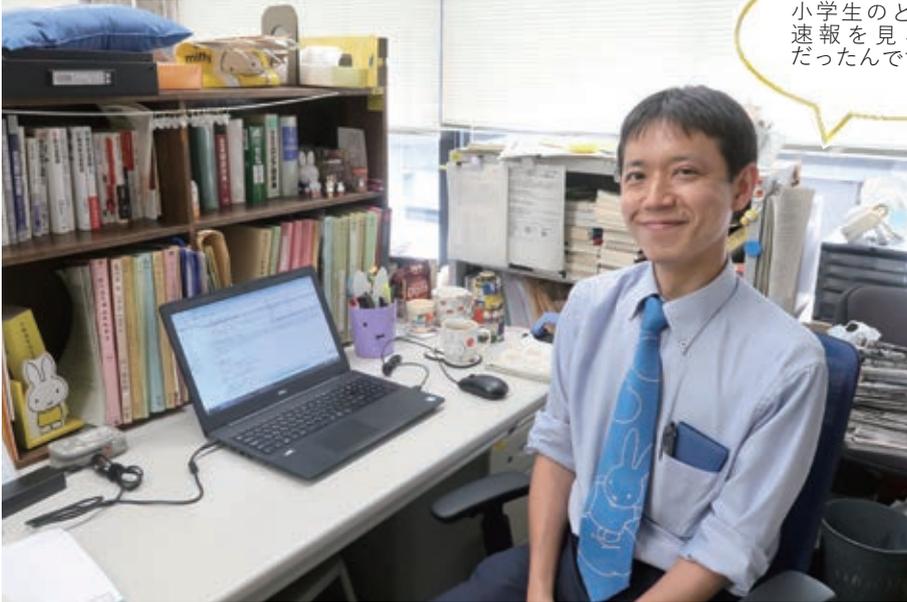
今を記録し、未来に伝える

国立国会図書館で働いています

Season2

no.2

小学生のときから開票速報を見るのが好きだったんです



今どんなお仕事をされていますか。

調査及び立法考査局(以下「調査局」)は、国会議員の活動をサポートする調査研究の仕事をしています。その中の政治議会課で政党関連の調査を担当しています。調査局の仕事は依頼調査と、国政課題の調査研究の二つの柱があるわけなんですけど、政治議会課はその名の通り政治分野、つまり、議会、選挙、政党、内閣などについて所掌する課で、政党担当は政党関連のほか、政治事情、政治一般、政治資金などを担当します。

主要政党の変遷といった論文を書かれていますね。調査依頼としてはどんなものが来るんですか？

政党に関するものなら、過去の政党の変遷が図になったようなものがないか、っていうのがありますね。あとは、最近の事情はどうか。特に政党の合併、離合集散があったとか、そろそろありそうだ、という時にはよく依頼があります。それと外国の政治事情。ほかの課の所掌だと対応

する行政省庁があることが多いんですけど、政治議会課の所掌はあまり担当する省庁がないんです。

それは調査局の強みということになりますね。佐藤さんというと長らく選挙担当だったと思うのですが、

11年半選挙担当だったんですが、平成27年に政治議会課に復帰してから今の担当になりました。ほかの担当もカバーできるようにということでしょうか。

選挙担当を外れるのは寂しかったですか？

寂しいです！(笑)でも、この長い間のブランクを埋めるのはけっこう大変だなと。各国の選挙制度が変わっていくところもありますし、あとは一票の格差について何年かに1回判決が出て、そういうのも追っていかなければいけないし、新しい資料も出てくるし。

そもそもなぜそんなに選挙が好きなのですか？

小学生のときから開票速報を見るのが好きだったんです。

小学生!?

数字がカチカチ出てくるのが好きだった、というのがまずあったと思います。それと、投票には親がいつも連れて行ってってくれていたんですね。最近、投票率には子どもの時に親が投票所に一緒に連れて行ったかどうかの影響しているということがあるので、私も必ず

佐藤 令^{りょう} 調査及び立法考査局 政治議会課

平成9(1997)年4月 専門資料部 参考課 庶務係
平成11(1999)年4月 調査及び立法考査局 法令議会資料課 法令索引係
平成14(2002)年4月 調査及び立法考査局 政治議会課
平成25(2013)年10月 調査及び立法考査局 調査企画課 課長補佐
平成27(2015)年10月 調査及び立法考査局 政治議会課

自分の娘を連れて行くんですけど。

そうなんですか！

中学生になってからの選挙でしたが、当時はだいたい親の政治的傾向はわかっていたので「この人に入れるんでしょ」って親に聞いたら、「いや、その人は1位で当選するだろうからその人以外に入れる」って。これって当時は中選挙区制という、世界でも珍しい選挙制度だったんですけど、その制度ならではの投票行動なんです。1位に入れたら、もうそれは無駄になるから、次点の人、落ちるかもしれない人に入れるという風に考えが働く。そういうことを、あ、面白いなと中学生ながらに思っていました。

なるほど……

今は衆議院は小選挙区制中心になりましたが、参議院は今でも中選挙区制のような制度です。参議院は、たとえば東京都だったら定数は最近5から6になりましたが、それである党が2人立てると、1人が大量得票しすぎちゃって1人が落選してしまうとか。政党の側も有権者の側も戦

略を考えて候補を立てたり投票したりするんですよ。

お互いに知力を尽くすわけですね。ところで、ここでは定数がいくつか頭に入ってるんですか？

都道府県別の衆議院の小選挙区数とか、参議院の選挙区定数とか、国政選挙はなんとなくは把握しています。

すごい！じゃあ選挙担当でなくても、開票速報はずっと追っている？

それはもう欠かさず（笑）。

政党の話とテンション違いますよね（笑）。

それはよく言われますね（笑）。「佐藤さん、選挙の話になると生き生きしてくる」って。

（笑）。今までに思い出深い依頼などありましたか？

ある論文を書いた時は、刊行日の前日の夜に、ある党のプロジェクターの会議に呼ばれて。急いで抜き刷りをコピーして配って、話をし。賛成、反対がとても分かれるテ

マだったんで、次々質問が飛んで来て緊張感あるやりとりでした。

また別の、ある制度の検討が始まったとき、いろいろ調べてみたら、けっこう課題があることがわかったので、課題を整理した記事を書いたんです。その記事を議員さんが読んで、委員会での質問の参考にしてくださっていたと聞いたこともありました。

やりがいを感じますね。

原稿を書いてしっかりそれを発表できたとか、レクチャーなり報告書の作成なりで依頼者に満足していただけた、というのが日々のやりがいですね。あとはこういう資料ないかなと思って、確証はないけど、いろいろ

る調べていたら考えていたとおりの資料が出てきた、というのが一番うれしい。

昨年3月号に登場した桐原さんも宝探したと言っていました。

◆◆◆
入館した時は専門資料部参考課庶務係。参考課というと、レファレンス全般の課ですが。

庶務の仕事でした。それと入館ゲートのお手伝い。今は外部委託ですが。

その後、法令議会資料課法令索引係に異動されましたね。
将来は政治議会課で選挙担当を希望していましたが、まずは同じ調査局





の少し大きい課での業務を経験しました。

もともと大学では政治学を？

政治学専攻ではありませんでしたが、ゼミで選挙関係に強いゼミに入ろうと思ったのに、入れなくて(苦笑)。じゃあ公務員試験の講座でも受けるかと思って。国政選挙しか興味なかったので、就職先としては衆議院と参議院だろう、と。で、案内を見ていたら、図書館もあるんだ、じゃあ一緒に

に受けるかって(笑)。

じゃあ法律はやったことなかった？

法律は全然。法令議会資料室(現在の議会官庁資料室)のカウンターに出で、法令議会資料を案内したので、それは今も役立っています。

念願の政治議会課に異動できた時ほんとにも嬉しかったでしょうね。

政治議会課には長年にわたる選挙関係の調査の大きな蓄積があります。そういう積み重ねがあるから論文も書きやすいし、刊行物が信頼してもらえる、使ってもらえるんだと思います。

調査企画課の課長補佐になったのは、調査局の業務の全体を見られるように、ということでしょうか。

総括と企画担当の補佐がいて、私は企画担当でした。プロジェクト型の調査や議員要望調査といったことろジをいろいろ勉強できました。1年間、こういう流れで計画が立てられて、それで執行して評価がこうなって、という。

ミッフィーがお好きと聞きました
が、いつ頃から？

入館した年ですね。係にミッフィーが好きな人が多くて、いろいろなグッズが置いてあったんですよ、事務室に。「あ、可愛いな」と思って。

ミッフィー好きが縁で結婚に至った
とうかがってます。それで作者の
ディック・ブルーナさんにオランダ
まで会いに行つたとか!?

ブルーナさんには、結婚の前に「かくかくしかじかでブルーナさんのおかげで結婚することができました、ありがとう」という手紙を出そうと思って。ただ手紙は書いても、じゃあ住所をどうするんだって。当時、参考図書室(現在の人文総合情報室)で探したら、ヨーロッパ芸術家名鑑みたいなのがあってブルーナさんのアトリエの住所が出てたんですよ!で、出したら返事が来た。

返事が来るところがすごい! 参考
図書室を使ったっていうのもいい!
そうそう。新婚旅行で当然オランダ
に行くことになって。本だかネット
だかで、ブルーナさんが毎朝寄る喫
茶店の名前をみつけて。1回行って

じろじろ見ていたんだけど、らしき
人がいなくて。店長さんみたいな
人に聞いたら、今日もう帰つたよ、
明日の8時の開店にいらっしゃいっ
て。

次の日早起きして、2人でミッ
フィットレーナーを着て喫茶店から
ちよつと離れたところで「来ないか
な」と思って見ていたら、向こう
から自転車でブルーナさんが! し
かも喫茶店に寄らないでまっすぐ
こっちに来て。

ええ!?

喫茶店の人から聞いてたんじゃないかなと思うんですよ。日本からちよつと変わったのが来ているから話聞いてやんなよ、みたいな(笑)。「今は時間ないけど、1時間後にアトリエに来られるか」って。

やさしい!

それで「わかりました、行きま
す!」って言って。その住所を頼り
に行つて、1時間くらいお話ししま
した。その時の思い出は宝物です。

お家はミッフィーだらけ?

天袋にしまってるのも多いですけ

本屋に

ない本



北極海航路ハンドブック

北極海航路ハンドブック検討委員会 編
日本海難防止協会
2015.3 26cm
<請求記号 DK147-L4>

パンケーキアイスをご存知だろうか。スイーツではなく、氷の種類である。水がぶつかり合ってハスの葉状にふちがまくれ、ほぼ円形になったものをいう。なんだか美味しそうな名前だが、氷が浮かぶ海を進む船には脅威となる。氷によって船体や舵などが損傷する可能性があるからだ。そんな危険にどう対処すべきか、指南してくれるのが本書である。

本書の内容は前編・後編に分かれており、船員や海の仕事を指す人のために、北極海航路を利用する際の基礎知識を解説している。北極海航路とは、北極海を通りヨーロッパとアジアを結ぶ最短の海上ルートである。ヨーロッパから日本へ向かう場合、ユーラ

シア大陸の南を進む航路に比べ、3割ほど距離を縮減できる。氷に閉ざされた険しい航路のため利用する商船は少なかったが、近年、氷の減少や環境の整備等により利用が増加し注目を集めている。

前編では北極海航路の歴史や地理、気象等の基本情報が説明される。北極海というと、吹雪と冷たく澄んだ空気を想像しがちだが、実際は異なることが明かされる。周辺の気温は夏にはプラス5〜10度まで上昇し、春先にはスモッグが発生するなど、気候変動や大気汚染の影響を少なからず受けている。そもそも北極海航路の活用が進んだのは地球温暖化による氷の減少が大きな要因の一つであり、産業の発展と環境

保全の両立の問題を知る一端となる。

後編は架空の貨物船における14日間の航海日誌である。新人操舵手を主人公に、役割を分担し連携を取る船員の姿が描かれ、プロの仕事ぶりを垣間見ることが出来る。一歩間違えれば命の危険になりかねない、実践経験と専門知識が物を言う仕事である。

本書の間には北極海に関するコラムが多数ちりばめられ、一般人にとっても気軽に読めるものとなっている。体を温める健康法や料理、緊急時の食糧調達法など、北極海での生活は興味深い。雑学的に思えるこれらの情報も、実際に航海をする者にとって、いざという時に役立つ重要な知識だろう。近年、北極海航路の利用が増加している

ものの、日本の実務経験者は少なく、本書は先人の知恵を共有する一助になっていると言える。

また、本書には北極海の風景や生物の写真も掲載されている。深い藍色の海や一面に広がる氷塊、氷を割って進む船など、壮大な景色が見られる。気軽に遠方へ出かけることが難しい昨今だが、本書を読めば、ちよつとした冒険気分が味わえるかもしれない。

では、最後にクイズをひとつ。熟練した船員は、雲の色の微妙な変化から氷が現れる兆候を感じ取るそうである。海上の氷を反射した雲は何色に見えるだろうか。答えが気になる方は、ぜひ本書を開いてみてほしい。

(金子捺美)

※本書は日本海難防止協会ホームページでPDFが閲覧可能です。

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

村にあった図書館の蔵書目録

国立国会図書館にない本



1920年代に図書館が増える

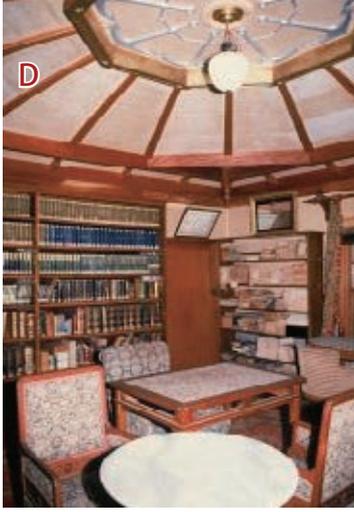
図書館は、明治維新後にまずは京都や東京といった都市部に成立した。その後、府県立や、私立、市立の図書館が現れてくる。20世紀になると、日露戦争(1904・5)後の内務省が主導した地方改良運動や、文部省による通俗教育(現在の社会教育)の推進を背景に、大正天皇の即位礼(1915)を記念する例も含めて、青年団や市町村、篤志家等によって図書館が多数設立された。

図書館の数は、『日本統計年鑑』によると、1911年に445(うち私立280)館、1921年に2,055(うち私立826)館、

鈴木 宏宗

1931年には4,609(うち私立1,343)館と、急速に増えている。文部省の調査では、1931年4月1日現在、4,300館ある図書館の多くは小規模な図書館で、蔵書数が1,000冊未満の図書館が3,085館、1,000以上5,000冊未満は950館であり、運営主体から見ると村立図書館が2,358館であった。^③

明治末から文部省は、小規模な図書館の増設を推進しており、それを受けて県による設置の促進や補助が行われた。図書館で実務をリードしていた山中樵(新潟県立図書館勤務、後に館長)は、1919年に小規模図書館を小学校に付設して適切に経営・維持されれば読書に有益で



A、Cは左ページの『呉竹文庫図書目録』に掲載された写真。
B、Dは現在の呉竹文庫。
出典：白山ミュージアムポータルサイトより <http://www.hakusan-museum.jp/kuretake/introduction/>

あると、その意義を述べ、実際に新潟県内で各種図書館事業のひとつとして推進した。現在と違って、小学校に（学校図書館ではなく）小規模な公共図書館を設けることは、東京市を含めて各地で行われていた。和田万吉（東京帝国大学附属図書館長）は、1922年4月に開催の全国図書館大会で「図書館運動の第二期」と題する講演を行い、各地の小図書館の貧弱さを憂えながら、その充実を訴えている。後年、図書館史では、この時期については「国民教化」と貧弱な図書館の時代と否定的に言及されることもある一方で、「図書館」という施設が国内にこれだけ多く存在したことが、図書館を広く認識させる意味を帯びたのではないかと指摘もある。この時期に増えた小規模な図書館の活動を知ることが現代の我々にも意義があるだろう。

村にあった図書館の目録

図書館の活動を知るには、そこで作成された文書資料や雑誌、新聞

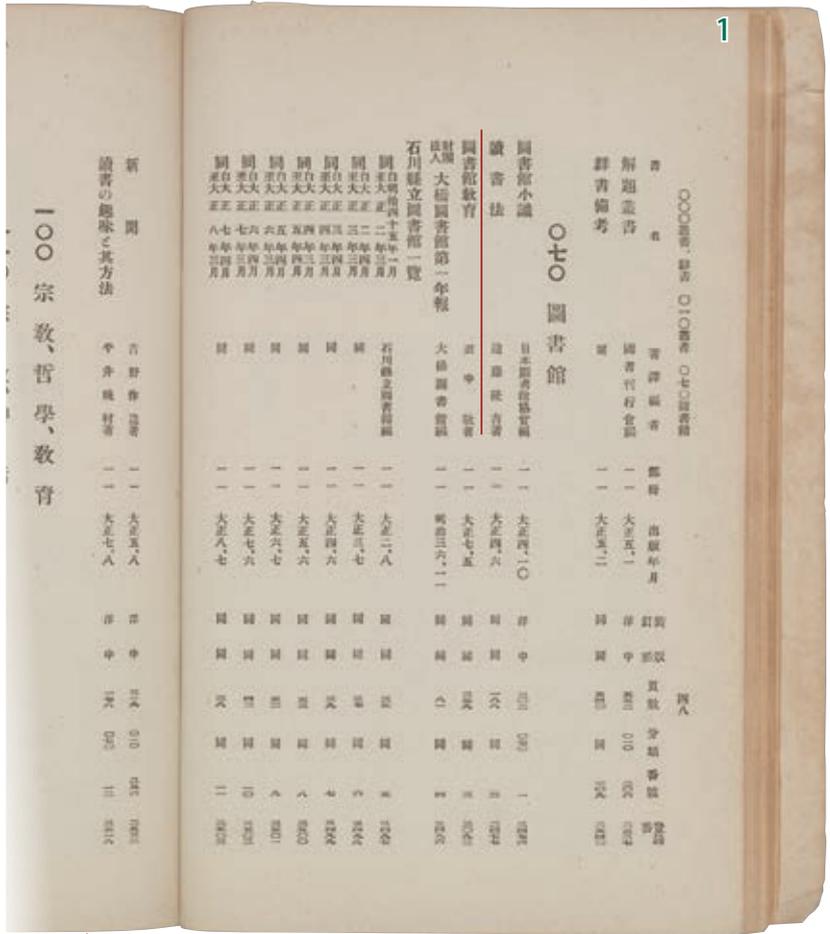
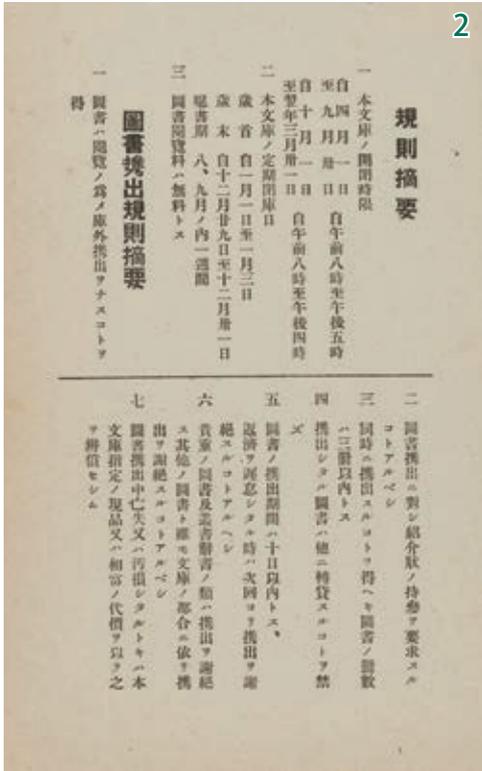
の記事が役に立つ。さらに、蔵書の構成を知ることによってもその図書館の方針をうかがえるであろう。1920年代に所在地が〇〇村（行政区画の村）にあった図書館の目録を見れば、その図書館の特色を部分的ではあれ、わかるはずである。とはいっても、残念なことに、この種の目録を目にする機会は、あまりない。

ここで取り上げるものは、筆者がたまたま古書店に出たものを別個に入手したもので、実際に多数存在していた蔵書数1,000冊未満の図書館に該当するのは1冊だけであり、それ以外は、小規模な図書館のなかでも比較的蔵書数があったところの図書目録といえる。

また、これらは、図書目録であって、雑誌や新聞は収録の対象となっていないため、蔵書の全体がわからないのが、残念である。

国立国会図書館において、この種の目録として、幸い、1冊だけ所蔵するものがあったので、それも紹介したい。

『吳竹文庫図書目録』1921.7
288p; 22×15cm 3,551部収録
所在地：石川県能美郡湊村（当時）



吳竹文庫図書目録

吳竹文庫は、創設者である熊田源太郎（実業家1886・1935）の蔵書を元にした私立図書館である。創立は1907年3月30日で、図書館令による創立年月日は1916年5月20日、本格的に活動を開始したのは、1922年2月3日に財団法人として認可された前後という。1935年に創設者が亡くなると、活動が止まっていたが、その後、1989年に再興、当時所蔵していた図書について1993年には目録が新たに作成され、2000年度には、記念事業も行われた。⁽¹⁾現在、その建物や展示品を見ることが

可能な文化施設となっている⁽²⁾（右ページB、D参照）。

表紙の図案は、画家の津田青楓による筆、鳩山秀夫（法学者）と大島照（漢学者）による序文と自序があり、利用風景の写真も載っている（右ページA、C参照）。書名、著訳編者、部、冊、出版年月、装釘、版型、頁数、分類、番号、登録番号を分類ごとに載せている⁽¹⁾。収録件数も多く、読み物よりも啓蒙書が多く、各種辞書や図書館学関係の書籍もそろえている。最後に「図書携出規則摘要」⁽²⁾が載っており館外への「携出」を認めている（現在は館外への貸出は禁止）。

国立国会図書館にある本

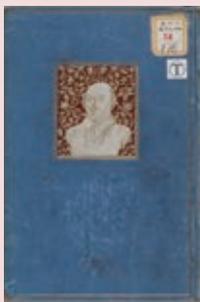


敬中 田大 著『図書館教育』同文館大正7
https://doi.org/10.11501/980513
(モノクロ画像)

<p>第六卷 心、道草 第七卷 明晴 第八卷 文學論、文學評論 第九卷 小品、評論、雜編 第十卷 初期の文章、詩歌、俳句 第三卷 書部集 第三卷 讀書部集 一葉全集 前編 日、文編</p>	<p>抱月全集 第一卷 文藝評論 第二卷 文藝評論 第三卷 美學、歐洲文藝史 第四卷 文藝概論 第五卷 故郷</p>	<p>樋口夏子 嶋村抱月 樋口夏子 嶋村抱月</p>	<p>モリナパンナ 海の夫人 復活 クレオパトラ しりあらし 玉かづら 清純と佛御前 運命の関</p>	<p>第六卷 文藝雜纂 第七卷 隨筆、書簡、日記 第八卷 隨筆、書簡、日記</p>	<p>櫻牛全集 第一卷 美學上の研究 第二卷 文藝、史傳 第三卷 文藝、史傳 第四卷 時論、思索 第五卷 想華及消息</p>	<p>齋藤信策</p>	<p>海外全集 第一卷 著英詞韻 第二卷 著英論</p>	<p>森 林太郎</p>	<p>第四卷 小説及戯曲 第七卷 能久親王事蹟その他 第九卷 北條源平 觀瀾雜話、ギョウテ傳 第十卷 哀しき人々、負けたる人 第十一卷 ナロメ、短劍を持ちたる女 第十二卷 即興詩人、十三時 第十三卷 玉を懐いて罪あり 第十四卷 病室着色の事、その他</p>	<p>有島武郎全集 第一卷 人生の體験、草の葉、宣言 第二卷 お東の死、カインの末裔、 林檎の野 第三卷 石にひしがれた雜草 第四卷 生れ出する顔み、戀書 第五卷 ある女、雜編 第六卷 文學は如何に味よべきか 第七卷 情みなく愛は枯ふ 第八卷 生活と文學、御往、星座 第九卷 ドモイの死、小作人の告別 第十卷 眞夏の夜の夢</p>	<p>第九卷 書簡集 第十卷 書簡集 第十一卷 日記集</p>	<p>キイツトマン詩集 第九卷 書簡集 第十卷 書簡集 第十一卷 日記集</p>	<p>沙翁傑作集 1 マクベス 2 ジュリアスシーザー 3 リヤ王 4 ハムレット 5 ラチヤード三世 6 ヘンリー四世 7 コリオレーナス 8 オセロー 9 ゲエニスの前人 10 タムベスト 11 ヘンリー四世 12 眞夏の夜の夢 13 ロミオとジュリエット 14 じやじや馬馴し 15 お氣に召すまで</p>	<p>坪内逍遙譯</p>
--	--	--	---	---	--	-------------	--------------------------------------	--------------	--	---	---	--	--	--------------

『図書目録 附図書館規則 山形図書館 大正十四年五月』[1925] 40p; 22.5 × 15cm 1,089冊収録
所在地：長野県東筑摩郡山形村

国立国会図書館にある本



シェークスピア 著、坪内逍遙 訳『沙翁傑作集 第18編 (十二夜)』早稲田大学出版部 大正10 <https://doi.org/10.11501/979386> (モノクロ画像)

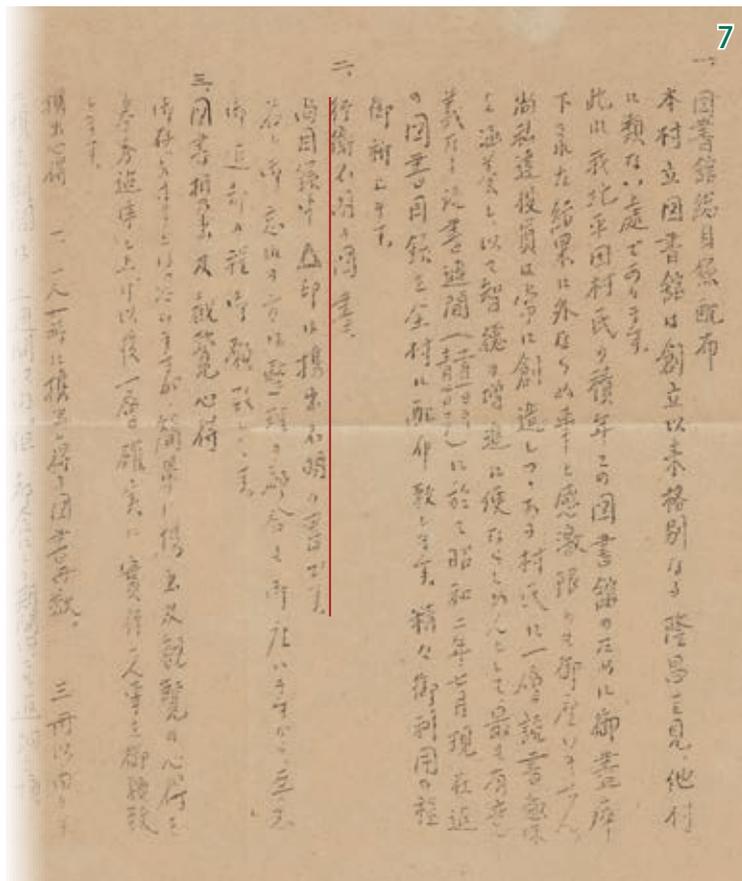
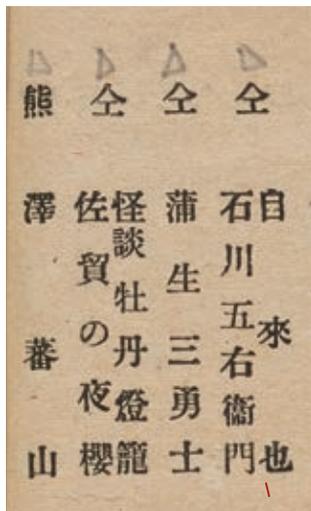
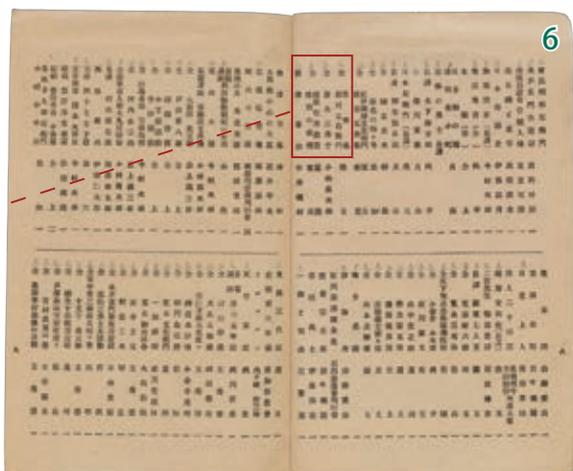


図書目録 附図書館規則 山形図書館

表紙(3)の館名を見て、一瞬、山形県にある図書館かと思った。が、目録付属の図書館規則中に「山形村」との記述があり、同村の青年会長が館長を務めるとなっていた。さらに、国立国会図書館サーチでは、刊行年違いの同名資料が見つかった^{1,3)}。それは県立長野図書館の所蔵で、出版地が山形村であったため、長野県山形村と推測できた。同県の過去にあった図書館を調べたところ、所在地と創立時期(1923年)が判明した^{1,4)}。

目録部分では書名と著者名を分類順に載せる。一般的なジャンルの本を含み、講談本などの読み物も多くあるが、『沙翁傑作集』など全集類について詳しく載せている(4)。また、1950年代初期にも、この図書館の蔵書について、「全集物を多く蔵している」のが特色としてい^{1,5)}。図書館規則により、その組織や利用方法がわかる。

『図書総目録 北平田村図書館 昭和二年七月現在』[1927] 23p; 23.5×16cm 1,232冊収録
所在地：山形県飽海郡北平田村



国立国会図書館にある本



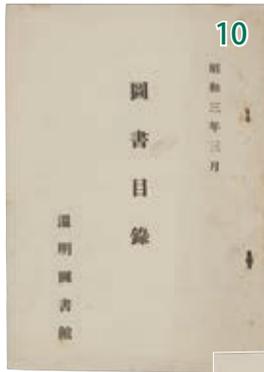

(右) 桃川燕玉 講演、今村次郎 編『自來也・石川五右衛門 (長篇講談 第18編)』博文館 大正6 <https://doi.org/10.11501/907216> (モノクロ画像)

(左) 農業に関連する図書の一例。八鍬儀七郎著『養鶏学』成美堂 明39 <https://doi.org/10.11501/842120> (モノクロ画像)

図書総目録 北平田村図書館

北平田村図書館の概要を含む報告が刊行されており、次のことがわかる。1908年に山形県の北平田村青年会の事業として設立、1920年4月に北平田村に移管されて村立図書館となり、北平田小学校の一室に置かれ、山形県内でそれなりに活発で模範的経営と評価され、館外への貸出を主とし、目録は小学生を使って各戸に配布していた。

右上に穴(5)があり、紐を通してつりさげていたのかもしれない。巻末には本を取り扱っている商店(酒田町)の広告が載っている。本文には書名、著訳者名、冊数を載せる。読み物、農業関係、家庭関係が多い。書名の上に△の印を書き込んだものがある(6)。幸いなことにその意味を説明するガリ版刷りの紙(7)が挟まっていた。それによると△は行方不明を示しており、どのようなものがわかる。(17)『自來也・石川五右衛門』(博文館、1917)といった講談本、農業に関連する図書や実用書が、行方不明となっている。



『図書目録 温明図書館 昭和三年三月』
[1928] 22p; 18.5 × 13cm 627
冊収録
所在地：長野県南安曇郡明成村

第一冊 全集	第二冊 全集	第三冊 全集	第四冊 全集	第五冊 全集	第六冊 全集	第七冊 全集	第八冊 全集	第九冊 全集	第十冊 全集	第十一冊 全集	第十二冊 全集	第十三冊 全集	第十四冊 全集	第十五冊 全集	第十六冊 全集	第十七冊 全集	第十八冊 全集	第十九冊 全集	第二十冊 全集	第二十一冊 全集	第二十二冊 全集
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	----------

11

閲覧及貸出について

- 一、本館内閲覧室にて圖書閲覧せんとするものは閲覧票を得て各項に記入し係員に示し借り受くること。圖書は如何なる事情あるも絶対に閲覧室外に持出さぬこと。
- 二、閲覧室にては極めて静慮に喧騒雑音にならぬ様に。
- 三、圖書閲覧後は係員の手許へ必ず渡すこと。
- 四、圖書を館外に借り出し閲覧せんとするものは帯出閲覧票の各項に記入し係員に示し借り受くること。貸出期間は二週間位とします。
- 五、図書の際には必ず係員の手許へ届けること。
- 六、本館の圖書を紛失若しくは毀損したる時は第一の圖書又は相當代價で償償して下さい。
- 七、本館閉館時間は小学校の授業開始前二時間より終了後二時間位と定めます。
- 八、本館で購入した圖書は適當な時期に於て年三四回圖書目録を印刷し各村掲示場へ掲示し又必要の方には請求に應じ何時にても差上ります。
- 九、閲覧票、帯出閲覧票は何時にても必要の方に請求に應じ差上ります。(記入法は暫く氏名と書籍名のみとします)



『図書目録 村立畑野図書館 昭和五年五月末』 [1930] 29p; 19 × 13cm 845部、1,685冊収録
所在地：新潟県佐渡郡畑野村

14

第一冊 全集	第二冊 全集	第三冊 全集	第四冊 全集	第五冊 全集	第六冊 全集	第七冊 全集	第八冊 全集	第九冊 全集	第十冊 全集	第十一冊 全集	第十二冊 全集	第十三冊 全集	第十四冊 全集	第十五冊 全集	第十六冊 全集	第十七冊 全集	第十八冊 全集	第十九冊 全集	第二十冊 全集	第二十一冊 全集	第二十二冊 全集	第二十三冊 全集	第二十四冊 全集	第二十五冊 全集	第二十六冊 全集	第二十七冊 全集	第二十八冊 全集	第二十九冊 全集	第三十冊 全集	第三十一冊 全集	第三十二冊 全集	第三十三冊 全集	第三十四冊 全集	第三十五冊 全集	第三十六冊 全集	第三十七冊 全集	第三十八冊 全集	第三十九冊 全集	第四十冊 全集	第四十一冊 全集	第四十二冊 全集	第四十三冊 全集	第四十四冊 全集	第四十五冊 全集	第四十六冊 全集	第四十七冊 全集	第四十八冊 全集	第四十九冊 全集	第五十冊 全集	第五十一冊 全集	第五十二冊 全集	第五十三冊 全集	第五十四冊 全集	第五十五冊 全集	第五十六冊 全集	第五十七冊 全集	第五十八冊 全集	第五十九冊 全集	第六十冊 全集	第六十一冊 全集	第六十二冊 全集	第六十三冊 全集	第六十四冊 全集	第六十五冊 全集	第六十六冊 全集	第六十七冊 全集	第六十八冊 全集	第六十九冊 全集	第七十冊 全集	第七十一冊 全集	第七十二冊 全集	第七十三冊 全集	第七十四冊 全集	第七十五冊 全集	第七十六冊 全集	第七十七冊 全集	第七十八冊 全集	第七十九冊 全集	第八十冊 全集	第八十一冊 全集	第八十二冊 全集	第八十三冊 全集	第八十四冊 全集	第八十五冊 全集	第八十六冊 全集	第八十七冊 全集	第八十八冊 全集	第八十九冊 全集	第九十冊 全集	第九十一冊 全集	第九十二冊 全集	第九十三冊 全集	第九十四冊 全集	第九十五冊 全集	第九十六冊 全集	第九十七冊 全集	第九十八冊 全集	第九十九冊 全集	第一百冊 全集
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------

号、書名、著者名、冊数を載せる。講談類はあまりなく、『漢書評林』といった漢籍類や、農業関係もそれなりにあり、佐渡関係の書物も、ちらほらと収録している。

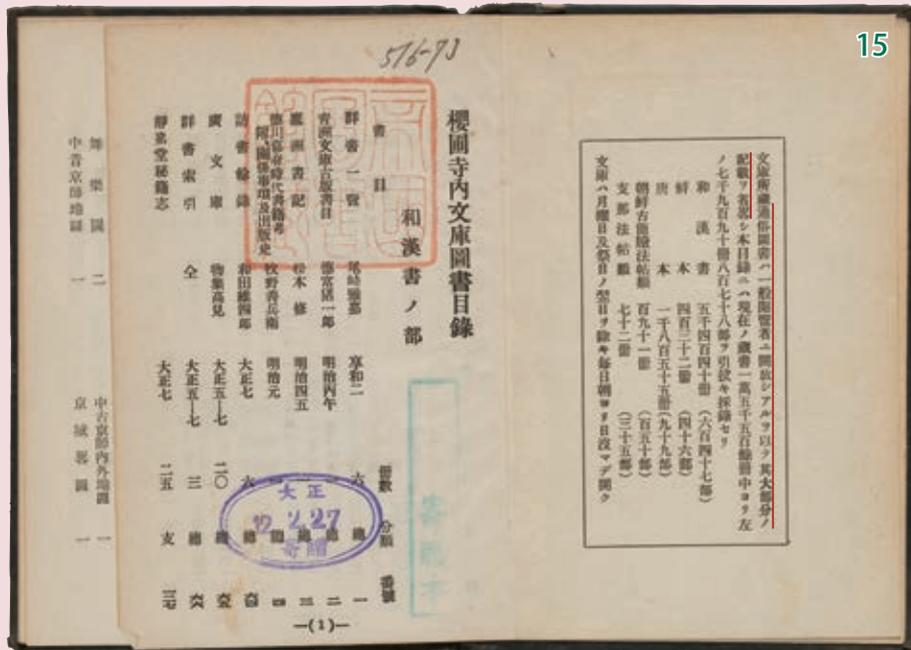
国立国会図書館にある目録

桜園寺内文庫 編『桜園寺内文庫図書目録』桜園寺内文庫 大正 11 107p; 16 × 11cm 878部、7,990冊収録 <https://doi.org/10.11501/977433> (モノクロ画像)
所在地：山口県吉敷郡宮野村



寺内正毅肖像

出典：電子展示会「近代日本人の肖像」<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/137.html>



桜園寺内文庫図書目録

寺内正毅（陸軍大将・首相1852

・1919、桜園は雅号）によって

基礎がつくられ、息子の寿一（陸軍

大将1879・1946）によって

創立された私立図書館。1922年

2月5日開館。1946年に山口県

と貸借契約、1957年に同県（山

口女子短期大学）に移管。現在は山

口県立大学附属図書館にある。

目録は国立国会図書館が所蔵（帝

国図書館旧蔵、発行所の寄贈）して

おり(15)、そこには、書名、著者名、年、

冊数、分類、番号を載せている。後に、

2013年には、西暦を継ぎ足すな

ど、再構成して刊行物に収録されて

いる。ただ、「通俗図書ハ一般閲覧者

ニ開放シアルヲ以テ其大部分ノ記載

ヲ省略」して、比較的貴重な資料を

載せており、どのような通俗図書（一

般書）を持っていたかは、この目録

では触れていない。多くの利用者が

接した一般書がわからない点は残念。

通俗図書は、地元の利用者のため

であり、それとは別に学者等に求め

られる特別な集書の目録を、遠方に

在って直接来館しにくい利用者向け

に刊行したのは、図書館として一ツの見識である。

比べてみると

図書館の分類は、現在であれば「日本十進分類法」を用いるところであろうが、この分類は1928年に森清によって発表されたものであり、当時は、それぞれの図書館で独自の分類を行っていた。同一県内では、県立図書館が中心となって県内の図書館協会を設けることもあって、似通った分類となることも多い。

呉竹文庫、饒石文庫、桜園寺内文庫、といった個人が設立した図書館のものは、比較的、収録冊数が多く、蔵書に典籍や郷土資料を含んでいる。それぞれの名称が「文庫」で共通しているのも個人蔵書が元であるためであろう。

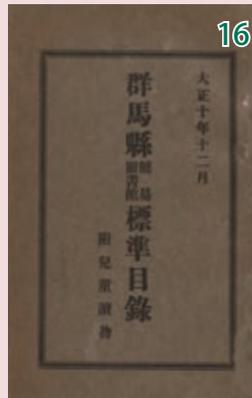
図書の一冊一冊の記述では、呉竹文庫のものが一番詳細である。

これら文庫以外の図書館目録は、より薄く、簡便な形態である。山形図書館と温明図書館の目録には利用案内も載っており、北平田村図書館



山口県立大学の正門近くにある旧寺内文庫。
出典：山口商工会議所ホームページより <http://ishin150-yamaguchi.com/spot024/>

国立国会図書館にある目録



(右) 群馬県学務課、前橋市立図書館編『群馬県簡易図書館標準目録 附・児童読物』煥乎堂 大正10 <https://doi.org/10.11501/941709> (モノクロ画像)



(左) 市立岡山図書館編『山田文庫図書目録』市立岡山図書館 昭和3 <https://doi.org/10.11501/1178800>



帝国図書館の受入印。
「内交 (=内務省交付)・昭和3・8・7」とある。

図書館の刊行した蔵書目録であれ

のか?
何故、国立国会図書館にない

は挟み込みによって、館外貸出を促進するために、手軽に、見てもらうことが目的であったことがわかる。そして、所蔵図書には、講談本といった、広く好まれた読み物もうかがえる。ただ、それぞれ注力して集めている分野はバラバラである。それぞれの図書館の特色を表しているであろう。そうではあるが、ある程度の基準として、図書館で蔵書構築のための目録、例えば群馬県学務課、前橋市立図書館編『群馬県簡易図書館標準目録 附・児童読物』(煥乎堂、1921)⁽¹⁶⁾も存在している。

呉竹文庫、饒石文庫、桜圃寺内文庫では、図書目録がこの時にしか刊行されていなかったことは、後世の調査⁽¹⁰⁾⁽¹⁸⁾⁽²⁵⁾によって、明らかになっている。それに比べると、他の図書館のものは、この時だけの刊行であったのか、山形図書館のように違う年次のものもあつたのかは、はっきりしない。

蔵書目録であれ

市立岡山図書館編『山田文庫図書目録』市立岡山図書館 1928⁽¹⁷⁾もある。

ば、帝国図書館には、それ相応に集まっている気がしたが、意外なことに、これらの目録は、その蔵書となっていないかった。

すでにこの連載⁽²⁷⁾でも触れているように、帝国図書館蔵書の多くは、検閲のために内務省が集めた図書であった。そもそも、目録の出版者が内務省に納本していなかったため、帝国図書館になかったのではないだろうか。というのも、今回紹介した図書目録のうち、『呉竹文庫図書目録』にしか奥付がない。当時の出版法では、奥付が必須となっており、それを省くということは、発行者が出版法の対象となるものと考えていなかったのではないだろうか。実際また、当の内務省も出版法に抵触しないものであれば事実上取り締まりをしていないと認識⁽²⁸⁾していた。もちろん、図書館の蔵書目録は全て、内務省への納本が行われていなかったというのではなく、同省経由で、帝国図書館の蔵書となっている例(市立岡山図書館編『山田文庫図書目録』市立岡山図書館 1928⁽¹⁷⁾)もある。

内務省経由で来ることもなく、寄贈もなかった場合、帝国図書館も受け入れることができず、残らないことになってしまったのであろう。

どこに残るか、その可能性

このような図書館の目録が残るとしたらどこであろうか。目録に掲載している蔵書が典籍や貴重書など一見して文化財の価値のあるものであれば、その蔵書・コレクションと一緒に残り、目録そのものもかえりみられやすい。桜圃寺内文庫は、朝鮮本の存在によって戦後も関心を引き付けてきた。蔵書中に地域の図書がある程度含まれていれば、『呉竹文庫図書目録』や『饒石文庫図書目録』のように地域資料、郷土資料として、目録も一緒に遺りやすいであろう。では、より一般的な図書を載せている簡易な図書目録はどうであろう。ページも少なく、その目的もエフェメラ資料（一過性で短期的に利用される資料）的ともいえ、残りにくいものである。しかし、存在す

ば目録そのものが地域資料となるのではないだろうか。その地域での読書をめぐる様子を垣間見ることができ、きるかもしれない。

また、図書館が併設されていた小学校の資料や教育・学事関係の文書とともに残っている可能性も高いよう気もする。

図書館の目録は、地味なものが多いのではあるけれども、ある時期のその地域で提供されていた図書を知ることができて、重要といえるであろう。ただ、見た目が派手なものもないので、ほかにもどこかにひっそりと残っているのではないかと思われる。

- 1 石井敦 著『日本近代公共図書館史の研究』日本図書館協会 1972 p.296<請求記号 UL244-16>
- 2 文部省社会教育局 編『全国図書館ニ関スル調査 昭和6年4月現在』文部省社会教育局 [昭和8-11] p.5 <https://doi.org/10.11501/1133704> (インターネット公開)
- 3 同上、『全国図書館ニ関スル調査 昭和6年4月現在』p.2
- 4 新潟県教育百年史編さん委員会 編『新潟県教育百年史 大正・昭和前期編』新潟県教育委員会 1973 p.347<請求記号 FB16-35>
- 5 『新潟県立新潟図書館50年史』新潟図書館 1965 p.15<請求記号 016.2-N693n><https://doi.org/10.11501/2934109> (国立国会図書館/図書館送信参加館内公開)、春山明哲 編・解題『台湾総督府図書館長・山中樵 事跡と回想録』金沢文庫閣 2018 pp.80-82<請求記号 GK197-L351>
- 6 『図書館雑誌』No.50 日本図書館協会 1922.7 p.4<請求記号 Z21-130><https://doi.org/10.11501/11230077> (国立国会図書館/図書館送信参加館内公開)
- 7 前掲、注1『日本近代公共図書館史の研究』pp.251-258
- 8 岩猿敏生「日本近代公共図書館史の転機としての1920年代」『文化学年報』No.54 2005.3 p.58 <請求記号 Z22-44>、小林昌樹「図書館ではどんな本が読めて、そして読めなかったのか」柳与志夫、田村俊作 編『公共図書館の冒険』みすず書房 2018 pp.72-74 <請求記号 UL244-L172>
- 9 石川県教育史編さん委員会 編『石川県教育史 第2巻』石川県教育委員会 1975 pp.330-331<請求記号 FB16-210>
- 10 財団法人呉竹文庫 編『呉竹文庫図書目録』前編・後編 美川町教育委員会 1993 (石川県内図書館横断検索 (<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/wo/cross/>)) によると白山市立図書館所蔵)
- 11 田口功一 編『美川町史 完結編』白山市 2008 pp.496-7<請求記号 GC96-J2>
- 12 呉竹文庫 <http://www.hakusan-museum.jp/kuretake/> (白山ミュージアムポータルサイト)
- 13 <https://iss.ndl.go.jp/books/R100000001-1059161760-00>
- 14 創立年月は長野県編『長野県統計書 昭和9年 第3編 學事』長野県 1936 p.66 <https://doi.org/10.11501/1710710> (インターネット公開)
- 15 日本学術会議 編『日本図書館総覧』自然科学書協会 1954 p.285<請求記号 010.35-N684n><https://doi.org/10.11501/2932032> (国立国会図書館/図書館送信参加館内公開)、同書によると、「村立」になっており、青年団からどこかの時点で、村に移管されたのであろう。
- 16 「模範的経営北平田村図書館の概況」山形県立図書館、山形県図書館協会 編『図書館叢書 第8輯 (図書館展望)』山形県立図書館 [ほか] 1931 pp.18-24 <https://doi.org/10.11501/1145162> (インターネット公開)
- 17 『図書館文化史研究』No.38 日外アソシエーツ 2021.9<請求記号 Z21-1398>に複製して掲載。
- 18 石川県立図書館 編『饒石文庫目録』石川県立図書館 1991<請求記号 UP171-E101>、この段の記載は同書を参照。
- 19 創立年月は、前掲、注14『長野県統計書 昭和9年 第3編 學事』p.63による。
- 20 所在地については、文部省社会教育局 編『図書館一覧 昭和12年4月1日現在』文部省社会教育局 p.76 <https://doi.org/10.11501/1115347> (インターネット公開)による。
- 21 「温明尋常高等小学校日誌 (抄) 明治四十五年度～昭和3年度」三郷村誌編纂室 編纂『三郷村誌 2資料編』安曇野市教育委員会 2009 p.418<請求記号 GC119-J45>
- 22 佐和田町史編さん委員会 編『佐和田町史 通史編3』佐和田町教育委員会 2001 p.255<請求記号 GC87-187><https://doi.org/10.11501/9541183> (国立国会図書館/図書館送信参加館内公開)
- 23 創立年月は、前掲、注4『新潟県教育百年史 大正・昭和前期編』p.1423による。
- 24 所在地については、前掲、注20『図書館一覧 昭和12年4月1日現在』p.68による。
- 25 この段は、伊藤幸司 編『寺内正毅ゆかりの図書館桜圃寺内文庫の研究 文庫解題・資料目録・朝鮮古文書解題』勉誠出版 2013<請求記号 GE3-L2>及び、伊藤幸司、永島広紀、日比野利信 編『寺内正毅と帝国日本 桜圃寺内文庫が語る新たな歴史像』勉誠出版 2015<請求記号 GK192-L332>を参照。
- 26 前掲、注25『寺内正毅ゆかりの図書館桜圃寺内文庫の研究 文庫解題・資料目録・朝鮮古文書解題』に収録。
- 27 小林昌樹「国立国会図書館にない本 内務省納本雑誌との出会い」『国立国会図書館月報』673号 2017.5 p.8 <https://doi.org/10.11501/10338395> (インターネット公開)
- 28 「第五十二回帝国議会衆議院 出版物法案委員会会議録 第二回」昭和2年3月2日 p.3の3段目 (帝国議会会議録検索システム <http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/#/>)

NDL Topics

新刊案内

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第289号

EU公益通報者保護指令

ドイツにおける電子政府法の概要及び評価

オーストラリアの2020年支払期間報告法



A4 92頁 季刊 1,980円 (税込)
発売 日本図書館協会
ISBN 978-4-87582-885-3

レファレンス 849号

気象予報による災害予測の現状と課題

デジタル時代の半導体産業と各国の政策―経済安全

保障の観点を含めた考察―

WTOの概要と課題

ヤングケアラー対策の課題



A4 100頁 月刊 1,100円 (税込)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

第35回納本制度審議会および第17回納本制度審議会代償金部会

9月2日、第35回納本制度審議会および第17回納本制度審議会代償金部会が開催されました。

審議会には委員12名が出席し、令和3年7月1日付けで、委員の委嘱および代償金部会に所属する委員の指名が行われたことが報告され、斎藤誠委員が互選により会長に選出されました。植村八潮委員を会長代理に指名しました。また、事務局から、出版物納入状況、有償等オンライン資料の制度収集開始に向けた方針とスケジュール等について報告を行い、質疑応答がありました。

審議会終了後に開催された代償金部会には委員7名が出席し、奥野弘司委員が互選により部会長に選出されました。奥野部会長は、江上節子委員を部会長代理に指名しました。

納本制度審議会委員名簿

(五十音順 敬称略) (令和3年9月2日現在)

会長

斎藤 誠 東京大学大学院法学政治学研究科教授

会長代理

植村 八潮 専修大学文学部教授

委員

伊藤 真 弁護士

江上 節子 武蔵大学名誉教授

江草 貞治 株式会社有斐閣代表取締役社長

奥野 弘司 慶應義塾大学大学院法学研究科教授

小野寺 優 一般社団法人日本書籍出版協会理事長

柴野 京子 上智大学文学部新聞学科准教授

仲俣 暁生 公益社団法人日本文藝家協会電子書籍出版検討委員会委員長



25 街路樹と関西館 photo by Mizuho

根本 彰 東京大学名誉教授
 平林 彰 一般社団法人日本出版取次協会会長
 堀内 丸恵 一般社団法人日本雑誌協会理事長
 丸山 昌宏 一般社団法人日本新聞協会会長
 村松 俊亮 一般社団法人日本レコード協会会長
 ○代償金部会所属委員
 奥野弘司(部会長)、江上節子(部会長代理)、伊藤真、小野寺優、根本彰、堀内丸恵、村松俊亮

* 審議会に関する情報は、左記に掲載しています。

ホーム>資料の収集>納本制度>納本制度審議会

<https://www.ndl.go.jp/collect/deposit/council/index.html>

動画で見る



国際子ども図書館 ガイドツアー

国際子ども図書館の建物の見どころをダイジェストで
ご紹介するガイドツアー動画を公開しました。
是非ご覧ください。

- 国立国会図書館国際子ども図書館利用案内
「国際子ども図書館ガイドツアー」
(国立国会図書館公式Youtubeチャンネルで
ご覧いただけます)

「建物の紹介」のページ

<https://www.kodomo.go.jp/about/building/index.html>

国際子ども図書館ホームページトップ>



International Library of Children's Literature

国立国会図書館 国際子ども図書館



11

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2021.11

NO.727

NOVEMBER
2021

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Cooperate in this civilization project—*Kokusei chosa senden kanpo kokokushu*
- 05 In pursuit of foreign books (Part Two)
Samurai, the Imperial Library, and Mysticism
MORI Arinori, HATAKEYAMA Yoshinari, SAMESHIMA Naonobu, and the Brotherhood
of the New Life
- 16 Working at the NDL, Season 2 Episode 2
- 21 Books not found in the NDL
Catalogs of village libraries
- 15 <Tidbits of information on NDL>
Record the present, pass it on to the future
- 20 <Books not commercially available>
Hokkyokukai koro handobukku
- 31 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和3年11月号 (No.727)

令和3年11月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 松浦 茂

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2021.11

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

リサイクル適性[Ⓐ]
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。